

「人と人との間に生まれる温かみ」

鳥取県 大廣寺 副住職 宮川 善永 だいこうじ みやがわぜん せい

ここ数年、コロナ禍という事もあり、人と人との対面の場が少なくなっていました。しかし今では少しずつ状況も改善されてきました。皆様も、改めて人と人が対面する有難みと大切さを感じていらっしゃるのではないのでしょうか。先日、人と人との関わりから生まれる「温かみ」を感じる出来事がありました。

私の集落の小学生は、学校に行く時の集合場所が、お寺の前になっています。ここにいつも何人か、ご近所の方が見送りに出て来られます。私も何度か見送りに出た事があるので、はじめの頃は子供達も、朝早く眠そうにしており、私に対しての視線も「なんだか頭を丸めた人がいるなー」という感じでした。しかし私と何度か顔を合わせているうちに、子供達の表情が日に日に親しみをもったものになってきていることに気が付きました。

その表情を見ると、小さな子供でも、大人でも同じように、人と人とは、顔を合わせていくことで、よりお互いに「親しみ」を持てるのだと感じました。「今日はどんな授業があるの?」「この間の運動会はとうだった?」「学校は楽しい?」「そんな何気ない会話を通し、子ども達と関わりあう地域の方々を見ていますと、子どもたちが「地域に温かく包まれる場」ができていると気づきます。

出発していく子どもたち、見送るご近所の方々、そこには心温まる情景があります。子供達は日に日に大きくなっていき、いずれあつという間に大人になります。「無事元気に学校に着きますように」、「豊かな心を持った人になりますように」と、見送る皆さんの眼差しには慈愛が溢れています。この時間は、地域の方々にとっても大切な時間となっております。生き甲斐の一つになっているのだと、子ども達を見送る皆様の背中を見ていて感じます。

急速に発展する現代の情報社会、人と人が顔を合わせる温もりのある場は減りつつあります。そんな中だからこそ、時々歩みを止めて人と人との関わりを思い返さなくてはなりません。「挨拶」、「声掛け」、「うんうんと話しを聞くこと」を通して、自分も人も心が温かくなると感じます。「自分の心も、人の心も温かくなる」、素敵な事です。大きな事からではなく、まずは私も近くの人たちと「温かみ」を育んでいきたいと思えます。